

1 ホザナ王の王イエス ホザナ ホザナ 王の王イエス 喜び迎えよ イエスが来られる ×2

【主の御名を全地の上で】

主の御名を全地の上で
あがめよう ほめたたえよう

心込めて歌おう 心込めて歌おう

【主を待ち望む】

待ち望む主を 待ち望む主を
待ち望む主を 主を待ち望む

待ち望め 主の栄光 待ち望め 主の御国
待ち望め 主の御声 へりくだり み前に立つ

【主の園のように】

主の慰めがシオンをおおい すべての廃墟をおおい
荒野を生かし 砂漠うるおす 主の園のようにされる

楽しみ喜び 感謝 歌声 たえまなく みちあふれ
御霊にふれられ 新しくされる
主イエスの御名に 永久に 栄光あれ

【主を待ち望む者は】

主を待ち望む者は 新たに 力を受けてのぼる
走り疲れず 歩みてうまず 驚のようにのぼる

【Still】

1. あなたの翼で 隠して 強き御手で

※ 世の嵐おそっても 待ち望むあなたを
あなたこそわが神 主の主 王の王

2. 御手の中 やすらぐ 信じる その力

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り ビリビ4の4~7
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り 詩篇51
3. 個人的な願いの祈り ヨハネ15の7
4. とりなしの祈り 1テモテ2の1~4/エペソ4

- ①大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ②瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ③クリスチャンが成長し、整えられ、用いられますように
= 教員が恵まれて、礼拝・祈禱会・奉仕・献金・伝道ができますように
- ④求道者が与えられ、救われますように→受洗者
- ⑤教会近隣の方が集われますように
- ⑥若い献身者が与えられますように
- ⑦ジョイキッズとユースの働きが充実しますように
- ⑧高齢の方々のフォローが十分になされますように
- ⑨Seto Life Art Studio が用いられますように
= ウクレレ・キッズ英語・ゴスペル・モンテッソーリ教室・音楽ミサなど
- ⑩50人→100人→200人と教会が成長しますように

5. 日本と世界とエルサレムの平和を願って...

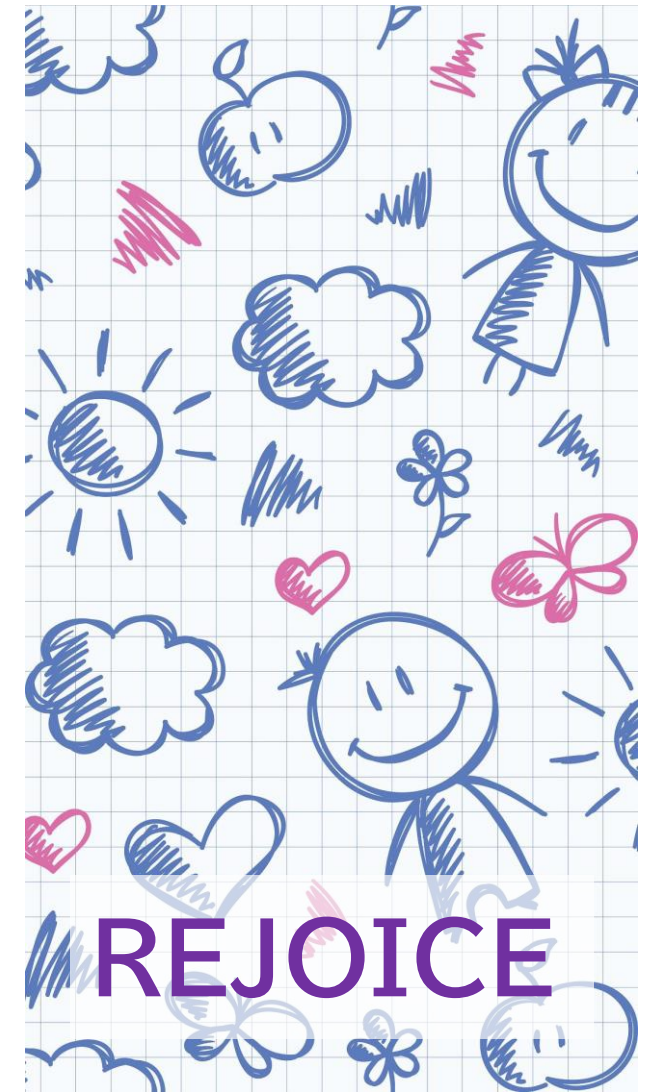
- ウクライナとロシアのために。戦争が終わるように。
- 日本の今後・未来のため。教育・経済・国際情勢。

信仰宣言

- 「私の家族は全員救われます」
- 「日本にはリバイバルが始まっています」
- 「私も用いられます」
- 「すべての問題は解決します」
- 「することなすこと、みな成功します」
- 「私のまわりには奇跡が起こります」
- 「すべてのことを感謝します」
- 「イエス様がご一緒ですから」
- 「ハレルヤ主よ感謝します」

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899
牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



祈りの小径(こみち)

Number: 148 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ピリピ人への手紙4章8～13節

8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

9 あなたがたが、わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことは、これを実行しなさい。そうすれば、平和の神が、あなたがたと共にいますであろう。

10 さて、わたしが主にあって大いに喜んでいるのは、わたしを思う心が、あなたがたに今またついに芽ばえてきたことである。実は、あなたがたは、わたしのことを心にかけてくれてはいたが、よい機会がなかったのである。

11 わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。

12 わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。

13 わたしを強くして下さるかたによって、何事もすることができる。

3

黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)



4

みことばの解説

「喜びの書簡」であるピリピ人への手紙の最後は、使徒パウロから、彼を様々な方法でサポートし、経済的支援し続けたピリピの教会への感謝で終わります。

聖書研究として注目したいのが10節です。パウロ先生は、ピリピの教会にパウロ先生へのケアの心が戻ってきたことを感謝しつつ、面白い表現をします。

「心にかけてくれてはいたが、よい機会がなかった」

「心にかけてくれてはいた」とは「concern(関心・重要なこと)」という英語ですが、これは、ギリシャ語では、内臓を表す言葉が使われ「直感的(腹で感じる)」という意味と、知性をもって認識(認知)する、この両方の言葉がひとつになった言葉です。

つまり、人は、関心があって、重要なことと分かって、直感的に、また認識的に「何かをしたい」と必要を感じていても、「よき機会がなかったなら」行動に出ないという意味なのです。「よい機会がなかった」というのも、ギリシャ語で「機会に欠けている・不足している」の意味で、「私が機会を欠かしている」とも受け止られる「未完了」が使われています。

パウロ先生は、11節以降で、自分は「どんな境遇にも足ることを学んでいる」から、支援・献金を要求しているのではないと言い、4章後半でも、捧げ物は捧げる本人にとって「勘定をふやしてゆく果実(17節)」だと言っています。つまり、こちら側の要求でもなく、命令でもない。「機会のない状態」を放置せず、「自ら機会を設けて行動する」ことが大切なのだ、回りくどいような文脈で伝えているのだと思います。

与えられた人生の中で、とくに他者を祝福することにおいて、「これをしたい」と感じてきたことを、「チャンスがなかったから」と言い訳せず、また、これ以上先延ばしすることなく、【人生を存分に使い、仕え、与える】ことこそ「祝福された人生」と言えるでしょう！